

## 第2回あいち教育賞入賞者（最優秀賞・優秀賞）

### 《最優秀賞》

#### 【共同の部】

心と体を一体としてとらえ、セルフコンディショニングができる児童の育成  
—運動プログラムと感覚統合により、理想的な姿勢を取り戻し、けがを予防する—

春日井市立牛山小学校 Team Kasugai Physical Health and Safety

代表 内島 慎太郎

#### 〈短評〉

運動プログラムや感覚統合、家庭や社会との連携による啓発活動などを通して、児童のけがを予防することをねらいとした実践である。

体幹トレーニングやコア機能再学習エクササイズなどの運動プログラムを継続的に実践し、児童自身が自らの意識と動作のずれを確認できるようにペア活動を取り入れるなど工夫することで、児童の運動機能の向上や姿勢改善が見られた。そのことにより、けがの発生件数を減少させることができた。また、児童の健康的な生活に対する意識が高まり、心と体の変化に気付き、自主的に生活習慣を改善しようとする態度が見られるようになった。生涯にわたり豊かなスポーツライフを送るための基盤をつくる持続可能な取組であり、高く評価できる実践である。

### 《優秀賞》（順不同）

#### 【個人の部】

「やってみたい」という思いをもち、友達と考えを伝え合いながら、自分たちで課題を解決する子の育成

—特別支援教育 総合的な学習の時間 地しんから自分の身を守るの実践を通して—

額田郡幸田町立深溝小学校 山本 治加

#### 〈短評〉

特別支援学級において、災害時の避難の仕方を体験的に学び、対話しながら考えを深めていく総合的な学習の時間における実践である。三河地震の頃と現在の避難生活を体験したり、避難グッズを考えたりする手だてによって、避難生活を自分事として捉え、問題意識をもっている点が評価できる。また、避難経路や防災倉庫の備蓄品について資料を効果的に示しながら話し合い、友達の考えに触れることで抽出児童が考えを変容させていく姿が丁寧に記録されており、参考になる点が多い研究である。特別支援学級の自閉・情緒学級の子供たちが、体験を通して切実感を持ち、適切な資料提示と友達との対話によって学びを深めていく手本となるような実践である。

## 【個人の部】

現象を主体的に追究し続け、科学的根拠をもとに考察し、考えを深める生徒の育成  
— 3年理科「鳴らして、回して、光らせて～より強い電池を目ざして～」の実践を通して—

豊橋市立石巻中学校 <sup>いしまき</sup> 山本 <sup>やまもと</sup> 伸樹 <sup>のぶき</sup>

〈短評〉

中学校3年理科「化学変化と電池」の単元において、課題の設定、追究、解決の過程を複数回経験する場面を設定することで、探究力の育成を目指した研究である。特に、LEDを光らせるために大きな起電力を必要とする条件を見いだす課題では、金属板の種類、大きさ、数や電解質の種類をさまざまに変えて実験を行い、考察させることで、理科の見方・考え方を働かせ、単元の本質に迫る構成になっているところは優れた取組である。あわせて、一人に一つ実験を課して、互いの考えを聞き合うことで、主体的に課題に向き合う姿勢の育成を目指す実践となっている。

## 【個人の部】

説明文を批判的に読む力を養い、自らの表現活動に生かそうとする生徒の育成

岡崎市立北中学校 <sup>きた</sup> 白形 <sup>しらかた</sup> 奈穂 <sup>なお</sup>

〈短評〉

国語科の学習において、説明的文章を多面的にとらえ、批判的に読む力の育成を目指した研究である。教材文「作られた『物語』を超えて」だけでなく、これまでに学習してきたさまざまな説明的文章を構成表として配付し、チーム学習の場面に応じた意図的支援を行ったことにより、生徒が説明的文章を読み比べ、教材文の分かりやすさについて吟味している点が評価できる。また、自分自身の書いた文章を推敲する際に、説明的文章の学習で身に付けた力を活用している点も参考となる部分が多い。生徒が試行錯誤しながら学習に取り組み、考えを深めている姿がよく分かる実践となっている。